

新庄市議会議員行政視察報告

会派名 絆の会

全体事項

- 1 視察日程 平成 29 年 11 月 13 日（月）～16 日（木）
- 2 調査事項 <視察先>
 1. 観光行政の取組みについて
 2. 石垣市公設市場
 3. 嘉手納基地について
 4. 最上広域と中部広域の交流事業について
- 3 視察参加議員（議席順）
今田浩徳 清水清秋 新田道尋 森儀一（代表）

具体的事項

（調査事項）

- 1 石垣市 観光行政の取組みについて 石垣市観光基本計画の概要

平成 29 年 11 月 13 日（月）15 時～17 時 30 分

説明者 石垣市企画部観光文化スポーツ局観光文化課

	課長	仲大底まゆみ
観光推進班	班長	通事勇生
議会事務局	次長	宮良八十八
庶務係	係長	高島尚子

(視察事項)

地域の紹介

1市2町、10の有人島からなる八重山諸島の拠点であり、沖縄県第3位(222.63k m²)の面積を有する石垣島と尖閣諸島で構成されています。沖縄本島から410 km、台湾までは227 kmで豊かな自然環境に、多くの人々が訪れます。人口49,265人(28年)

実績効果所感

観光基本計画を25年3月新空港の開港使用開始に合わせて策定し、観光産業及び関連産業の連携を図り観光立市を促進して観光による豊かな街づくりを目指す目的を掲げ、観光客誘客に向けた事業を展開していました。地域の特性をいかした「南の島の星まつり」沖縄振興特別推進交付金を活用した首都圏対象の「観光誘客プロモーション事業」プロ、アマの各種スポーツ競技を誘致する「スポーツ！ウェルカム！石垣島！事業」外国からの航空会社就航に向けた取り組みを実施する「国際定期便誘致事業」等平成32年までに観光入域客数100万人達成を目指していました。観光分野と街づくり分野の融合による観光文化の創造として、地域の産業の充実を進め受け入れ体制を確立し新しい魅力づくりと発信を市民参画のもと行っており、特にインバウンド強化として多言語対応、WiFi環境の整備、ホスピタリティーに富む人材の育成や確保、質の高いサービス、人々を惹きつける魅力あるコンテンツの提供とニーズに対応しながら取り組んでいました。当市に併せて見てみましても規模の違いはあっても、新たな観光客を誘致するためには共通する内容が多々あり参考にしながら目標達成を目指すべきと考えます。

評価課題

増え続ける観光客で不足事案が各方面で表れ、体制の脆弱性が露呈する状況となっており観光危機管理の取組みが急がれています。目標フレームを設定して計画立案がしやすく市民への広報が行き届いており何をすれば良いのかを市民が理解できる環境が整備されており、また観光客がまた来たいと思う気持ちを醸成する雰囲気がありました。来て欲しい気持ちとサービスが行き届かなくなるジレンマ、今後当市にとっても関わる課題となるのではないかと感じました。

2 石垣市公設市場

平成 29 年 11 月 14 日（火）8 時～10 時

石垣市民の台所であり、八重山諸島の台所でもあります。海鮮や食肉加工食品、その他生鮮農産物を 40 店舗で扱っています。5 坪ほどの区画で商店が並び朝 8 時から夜 10 時頃までと各店舗それぞれ特色ある販売を行っていました。1 区画月 5 万円の料金を支払い、事業に取り組めて顧客の確保も地域性のおかげもあってでき、安定した収入が可能となっています。出店している店舗も地域の需要に応える努力をしており信頼関係が構築されています。二階には乾物のブースを開設し新たな提供を進めていました。周りにもお土産店を中心に店舗が連なり相乗効果で商店街の活性にも寄与しており中心的な役割を果たしていると感じました。当市に於いても市場がありますが機能強化を図り市民に頼られる市場となるよう応援して行きたいと思えます。

3 嘉手納基地について

平成 29 年 11 月 15 日（水）9 時～10 時 30 分

嘉手納町議会

議長 德里直樹様

説明者

嘉手納町役場

基地渉外課

課長

我謝治彦

(視察事項)

地域の紹介

沖縄本島の中部に位置し東シナ海に面する海岸線沿いにあり総面積 15.12 km²、人口は 13,744 人。面積の 82%に相当する 12.40 km²が米軍基地で市町村面積に占める米軍基地の割合全国 1 位。基地の地主数は 12,124 人（嘉手納町域 5,071 人）年間賃借料 228 億 3 千 8 百万円（嘉手納町域 121 億 5 千 6 百万円）米本土以外では最大規模の第 18 航空団が駐留している。施設は飛行場、弾薬庫地区、陸軍貯油施設があり 99 人の町民が雇用され、町民の生活に大きな影響を及ぼしています。

実績効果所感

道の駅からは広大な飛行場の前にあり離着陸する戦闘機や輸送機、オスプレイなど 21 機種以上が見られ基地渉外課の職員が集音マイクを持ち騒音問題の数値鑑定を逐一行っていました。日常生活を営む中で音を聞く人によって感じ方が違い騒音の定義は難しい。具体的には「生理的に障害をおこすような音」「大きい音」「音色の不快な音」「音声などの聴取を妨げる音」「勉強や事務能率を低下させる音」「休養や安眠を妨げる音」などである。このような騒音の測定単位としてデシベルが用いられ日常聞こえる音を航空機騒音の大きさと比較、数値に表し町内の騒音の軽減緩和対策要請活動を行っている。苦情も 1 日当たり 30 件以上で深夜早朝の騒音や排気ガスなど年々増加の傾向にありまた、航空機事故が相次ぎ不安を助長しています。基地のある地域の不安は計り知れませんが対岸の火事的感覺で、実際に訪れてみてジェット機の爆音や繰り返される訓練飛行を目の当たりにすると切実な思いを感じ取ることができました。

評価課題

施設周辺の生活環境を安定向上に寄与することを目的に法整備し住宅防音工事、緑地帯の整備、特定防衛施設周辺整備調整交付金などの施策を加え「防衛 施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」を制定施行し町民生活を守っています。内容は防音工事の助成、移転の補償、土地の買い入れなどで区域を指定して対応しています。また、基地と良好な関係を継続する事業として人材育成を目的に専門学校に補助金を交付し英語学習や交流会の機会創出を図っていました。生活支援の充実を図り対象者には月 3 万円の支給を行い安定した生活の一助となっていました。有事の際の訓練とはいえ嘉手納町の負担は大きく、私たちの生活が守られていることに改めて感謝を申し上げ、嘉手納町民の生活が安定することを願います。

4 中部広域圏と最上広域圏の交流について

平成 29 年 11 月 15 日（水）11 時～14 時

説明者 中部広域市町村圏事務組合

事務局長 座喜味保

広域連携課	課長	仲宗根亨
広域連携課総務係	係長	仲宗根寛
広域事業係	主査	新屋一志

(視察事項)

地域の紹介

沖縄本島中央部に位置し沖縄市を中核都市として、中部 9 市町村で構成されています。圏域面積 263.9 km²で 23.8% (62.84 km²) が米軍施設となっており、沖縄県内の米軍施設の 27.3%が圏域に立地している。人口の推移は圏域全体で増加傾向にあり平成 17 年から 27 年の率は 7%と県計を上まわっている。共同で処理する事務内容は 6 点あり理事が組合を執行する。昭和 63 年に広域間姉妹提携を行い来年度で 30 周年を迎える。

実績効果所感

児童生徒の交流を通して地域を担う人材育成を目的に派遣と受け入れを行う交流事業と物産紹介や産業まつりに参加することで人的、物的交流を促進し活発な相互理解を継続する出展事業の二つを軸に取り組んでいます。最上郡内の小学生は気候風土の異なる沖縄の地域を自身の目で見、肌で感じることで自分が住む街を評価し何をすべきかを考える良い機会になり、自我の確立にも役立っているようです。当然中部地域の子供達も同じことが言え互いの効果が地域活性に役だっているからこそ、この事業が継続されているのだと思います。児童交流に関しては関わる教育委員会をはじめ、市町村の小学校、教師、保護者の協力、理解があり事業計画がしっかりと遂行されているのがわかりました。物産交流に於いても、当地域の様々な産物が中部圏域の方々に届き、商品を指名して購入する方も多く長年の関係を感じることができました。物産販売の機会が少ない現状があり、産業まつりだけでなく、市が企画するイベントを中心に販売機会の創出を考えて行かなければならないのではないかと感じました。

評価課題

交流 30 周年を迎えるにあたり新庄まつりの山車が沖縄の街を練り歩きます。今回訪問した際には企画作成の最中で、今年の新庄まつりを関係者の数名が視察に訪れていたという話も伺いました。記念事業と銘打って行うとのこと、事業費も相当額になり、事業成功に向けた並々ならぬ意志を感じまし

た。向かう当市も万端の準備を整えまつりの素晴らしさを伝え魅せなければ
ならないと思いました。児童交流、物産交流の定着でひとの行き来ができて
います。青年交流やシニア交流など更に活性化を図り 50 年 70 年と交流が継
続されていくことを願います。